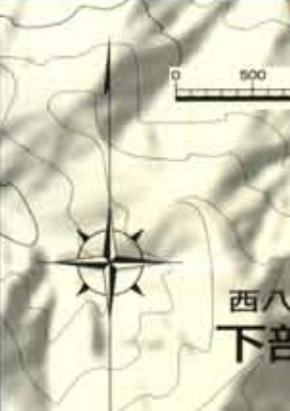


富士宮市富士山ハザードマップ

火山 溶岩流 火砕流 融雪型火山泥流 土石流 災害予測図



防災機関の連絡先	
富士山からの水蒸気や火山灰の噴出、地鳴り・鳴動などの異常現象が見つかったら、すぐ下記に連絡して下さい。	
名 称	電話番号
富士宮市役所(代表)	0544-22-1111
富士宮市役所 防災生活課	0544-22-1130
富士宮警察署	0544-23-0110
消防本部警防課情報指令室	0544-22-1201

本ハザードマップに関する問い合わせ先
富士宮市役所 防災生活課 電話0544-22-1130

この地図の作成に当たっては、国土院の提供したデータに基づき、関係機関の協力を得て作成しました。また、関係機関の提供したデータに基づき、関係機関の協力を得て作成しました。また、関係機関の提供したデータに基づき、関係機関の協力を得て作成しました。

凡 例

- 火口ができる可能性の高い範囲
(この範囲のすべてでなくどこかに火口ができます。)
- 噴火しそうな時、噴火が始まった時に避難が必要な範囲を示しています。(噴火した場合、下の3つのどれかに当てはまり、すぐに危険になる範囲です。)
- 火砕流が発生したときに、高熱のガスが高速で届く範囲
- 火口から噴出した石がたふさく落ちてくる範囲(この範囲外にも、まれに、10cm未満の小石などが飛ばされることもあります。)
- 溶岩が流れ始めた場合に、すぐ到達するかもしれない範囲(3時間程度を想定)
- すぐ危険にはなりませんが、火口位置によっては避難が必要な範囲です。公的機関から出される避難情報に注意して下さい。また、避難に時間のかかる人(お年寄りや入院患者等)は早めに避難して下さい。(溶岩が流れ続けた場合に、1日くらいに到達するかもしれない範囲を示しています。)
- 雪が積もっている時に噴火しそうな場合に、沢や川には近寄らないようにする必要があります。火山灰が厚く(10cm以上)積もっている地域では、溶岩が流れ続けた場合に、1日くらいに到達するかもしれない範囲を示しています。)
- すぐに危険になるわけではありませんが、たいへん大きな噴火の場合に避難が必要になることが想定される範囲です。公的機関から出される避難情報に注意して下さい。(溶岩が流れ続け、数日間以上で流れ下る範囲を示しています。)
- 火山灰が厚く積もっている場合には、大雨警報が出た時に避難する必要があります。火山灰が厚く(10cm以上)積もっている地域では、溶岩が流れ続けた場合に、1日くらいに到達するかもしれない範囲を示しています。)
- 避難場所
- 市役所・出張所
- 消防署・警察署
- 救護病院・救急医療センター
- 鉄道
- 有料道路
- 国道
- 主要道路

富士山ハザードマップ作成の目的

■富士山の地下約15kmを震源とする低周波地震が、平成12年10月～12月に約500回、平成13年4月～5月に約800回と非常に多く観測されました。この低周波地震はマグマの活動と関連していると考えられており、あらためて富士山が活火山であることが認識されました。

■平成14年から15年にかけて観測された低周波地震は、月平均15回と一時期に比較すると回数は減り、現時点（平成16年3月）においては富士山が噴火するような兆候はありません。

■しかし、万が一噴火しそうになったり噴火した時に備えた防災対策は、計画しておく必要があります。そのためにこのハザードマップは、想定される火山活動によって、どの範囲までどのような影響がでるのかを市民に知っていただき、皆さんが自らの安全を確保するためにはどう対処すればよいのかを認識していただく目的で作成しました。

■なお、このハザードマップは過去の富士山の噴火に関する調査をもとに作成されたため、実際に噴火した場合と内容が異なる部分が出てくる場合もあります。

富士山のめぐみ

～私たちは日常生活の中で、富士山から様々な恵みを受けています。～

■富士山に訪れる観光客

標高3,776mと日本一の高さを誇る富士山は、その高さと美しさゆえ毎年たくさんの観光客、登山客が訪れており、富士宮市の観光を語る上でなくてはならない存在です。

富士山のまわりには朝霧高原、由貴湖など富士山を見る絶景のポイントがいくつもあり、富士山に魅せられた人は日本だけでなく国外にまで及びます。また、富士山の登山口のうち富士宮口は富士山表口として昔から親しまれている登山口で、登山シーズンには多くの登山客で賑わいます。

■豊富な湧き水

富士宮市内には地下水が湧き出ている所が数多く見られます。この水は富士山に降った雨や雪が地下に染み込み、過去の富士山噴火によって出来た溶岩の層を通して流れ出ています。富士山の湧き水はその水質の良から、工業用水や飲料水、養殖場の水として利用されており、富士宮市の人たちの生活に欠かせない大切な資源です。湧き水の中でも特に有名なのが浅間神社境内にある湧玉池で、国の特別天然記念物にも指定されており、湧水量も1日約20万トンと豊富で神田川の水源となっています。

■日本の滝百選～白糸の滝～

高さ20m、幅200mという大きさを誇る白糸の滝は、富士山の雪解け水が溶岩壁より湧き出した美しい滝です。昭和25年10月に「観光百選滝の部」で1位に、また平成2年4月には緑の文明学会等が主催する「日本の滝百選」に選ばれており、年間60万人を超える観光客が訪れます。



富士山と牛



湧玉池（特別天然記念物）



白糸の滝

噴石（ふんせき）

火口から噴出した石がたくさん落ちてくる範囲（この範囲外にも、まれに、10cm未満の小石などが飛ばされることもあります。）



噴火時に火口から放り飛ばされる直径数cm以上の岩の破片や軽石を噴石といいます。大きな噴石が当たると、家は壊れ、けがをしたり死ねることもあります。とくに火口から半径2km以内は噴石がたくさん飛んでくるので危険です。1707年の宝永噴火では、上空の強い西風に吹かれて、火口から10kmほど離れた場所まで20cm程度の軽石が飛んできました。さらに20km離れたところでも数cmの軽石が飛んできました。とくに風下では、マップに着色されていない範囲でも噴石に注意して下さい。降灰や噴石が多い時は丈夫な建物内にいましょう。やむを得ず外出する場合にはヘルメットを着用して十分注意して行動しましょう。

火砕流（かさいりゅう）

火砕流が発生したときに、高熱のガスが高速で届く範囲



高温の岩石・火山灰・火山ガスの混合物が斜面を高速で流れ下り、巻き込まれると死亡する場合があります。自動車より速く流れるので、早めに避難する必要があります。

融雪型火山泥流（ゆうせつがひりゅう）

雪が積もっている時に噴火しそうになった場合に、沢や川には近寄らないようにする必要があります。雪が積もった火山泥流が沢や川沿いであふれるおそれのある範囲を示しています。



雪が積もっている季節に噴火が始まると、火砕流などの高温の岩で雪が解けて、斜面の土砂を取り込んで高速で流れ下ります。おもに谷底など低いところを流れますが、あふれて広がることもあります。山頂付近から一気に流れ下るので早めの避難が必要です。

火山ガス（かざんがす）

火山ガスはマグマに溶け込んでいたガス成分が気体となって噴き出すもので、二酸化炭素などの有毒成分を含むことがあります。火口などのガスが出ている周辺や窪地などのガスがたまりやすいと思われる場所には近づかないなどの警戒が必要です。

噴火しそうなる時、噴火が始まった時すぐに避難が必要な範囲を示しています。（噴火した場合、下の3つのどれかに当てはまり、すぐに危険になる範囲です。）

- 火砕流が発生したときに、高熱のガスが高速で届く範囲
- 火口から噴出した石がたくさん落ちてくる範囲（この範囲外にも、まれに、10cm未満の小石などが飛ばされることもあります。）
- 溶岩が流れ始めた場合に、すぐ到達するかもしれない範囲（3時間程度を想定）

溶岩流（ようがんりゅう）

溶岩が流れ始めた場合に、すぐ到達するかもしれない範囲（3時間程度を想定）



高熱の溶岩が斜面を流れ、家や道路を埋め近くの木々を燃やします。流れの速さは人が歩く程度なので、余裕を持って逃げるすることができます。

すぐ危険にはなりませんが、火口位置によっては避難が必要な範囲です。公的機関から出される避難情報に注意して下さい。また、避難に時間のかかる人（お年寄りや入院患者等）は早めに避難して下さい。（溶岩が流れ続けた場合に、1日くらいに到達するかもしれない範囲を示しています。）

すぐに危険になるわけではありませんが、たいへん大きな噴火の場合に避難が必要になることが想定される範囲です。公的機関から出される情報に注意して下さい。（溶岩が流れ続け、数日間以上で流れ下る範囲を示しています。）

火口ができる可能性の高い範囲

（この範囲のすべてでなくどこかに火口ができます。）



この図は仮に富士山が噴火した場合、溶岩流、噴石、火砕流などの影響が及ぶと想定される範囲を示しています。全体的な方向性には、実際の噴火活動時には、このマップに示した範囲外に影響が及ぶ可能性もあります。

どのような現象が起こる!? どのような注意が必要!?

洪水氾らん（こうすいはらん）
川の上流に火山灰がたくさん積もると、下流に流れてきて川底にたまるので、洪水が起きやすくなります。川沿いでは注意が必要です。

水蒸気爆発（すいじょうきばくはつ）
溶岩流が湿地帯や湖に流入すると、小規模な水蒸気爆発が起こることがあります。この場合、爆発の発生場所近くには噴石や爆風の危険があるので注意が必要です。

土石流（どせきりゅう）
山の斜面に火山灰が厚く積もると、雨で流れて土石流となります。特に厚さ10cm以上積もる地域では、何回も土石流が起こることがあります。人が走るより速く流れるので、降雨時は注意が必要です。

岩屑なだれ（がんせつなだれ）
山の斜面に火山灰が厚く積もると、雨で流れて岩屑なだれとなります。約2500年前に富士山東側の御殿場方面に崩れたことや、さらに昔にも複数回あった可能性があることがわかっています。広域に被害が及ぶので、危険性が高まった場合には、早めの避難が必要です。

火山ガス（かざんがす）
火山ガスはマグマに溶け込んでいたガス成分が気体となって噴き出すもので、二酸化炭素などの有毒成分を含むことがあります。火口などのガスが出ている周辺や窪地などのガスがたまりやすいと思われる場所には近づかないなどの警戒が必要です。

避難する場合は以下に注意しましょう

■忘れてませんか？

- 1 戸締り、電気、ガスの元栓を確認しましょう。
- 2 貴重品は忘れずに持参しましょう。
- 3 非常持ち出し品を確認しましょう。
- 4 外出中の家族のために、避難先を書いたメモを残しましょう。

■避難する場合は・・・

- 1 市役所や消防団などの指示に従い、落ちついて行動しましょう。
- 2 お年寄り、赤ちゃんのいる人、体の不自由な人、外国人などの避難を助きましょう。
- 3 小石が降ってくるがあるのでヘルメットなどで頭を守りましょう。また灰を吸い込まないようにマスクやゴーグルをつけましょう。
- 4 くぼ地には有毒ガスがたまりやすいので、近づかないようにしましょう。

■避難場所では・・・

- 1 人数を確認し、逃げ遅れた人がいないか確認しましょう。
- 2 お互いに助け合しましょう。
- 3 ラジオやテレビ、防災無線などの情報に注意しましょう。



火山灰（かざんばい）の到達範囲

火山灰や軽石を出す大規模な噴火の場合、広い地域に火山灰が降ります

季節によって風向きが変わるため、火山灰の到達範囲は変わります。この図はすべての季節を重ねて描いているため、実際の降灰範囲は異なる場合があります。

降灰の堆積する範囲と降灰深



降灰があつたら・・・

- 灰を吸わないようにするためマスクを着用しましょう。
- 富士山の近くでは火山灰だけでなく小石が降ってくるがあるので、やむを得ず外に出るときはヘルメットや防災ずきんをかぶりましょう。
- 家は窓を閉めて建物と密着します。木造家屋では屋根に30cm以上の火山灰が積もると、屋根が抜けたり建物が壊れたりすることがあります。特に雨が降ると火山灰が重くなるので注意しましょう。
- 車で走ると、灰を巻き上げて視界が悪くなったりスリッパが滑ります。また、雨が降っているとワイパーが使えず危険です。高速道路は、通行不能となる可能性があります。JRなど鉄道は、少量の降灰でも運行が困難になる可能性があります。